

No.
17
2011

多摩美術大学校友会
会報〔アルティ〕



alT



みなさま、お元気でいらっしゃいますか？



Cover story おふでまつり

1935(昭和10)年に、多摩美は帝国美術学校(のちの武蔵野美術大学)と分裂し、多摩帝国美術学校としてスタートしました。翌年には創立記念式典が行われ、11月1日が記念式典、2日が〈おふでまつり〉でした。これがのちに芸術祭となります。まず校庭の一隅に仮設の拝殿がつくられ、両端には学校事務から樽酒が供えられます。技能向上祈願と筆の供養を兼ねて、神主に扮した学生によるお祓いが行われ、杉浦非水校長の一礼二拍の参拝のあと樽が割られるにぎやかな饗宴となります。舞台では、たとえば彫刻科有志は「名作野外彫刻展」と題して、全裸に胡粉を塗って石膏像に扮し、大事なところはボール紙のイチジクの葉で隠して梯子乗りや逆立ちを行いました。樽は樽御輿になって校庭を練り歩き、後ろから仮装学生の踊りがづいて、やがて拝殿を解体し火がつけられて踊りは輪になります。そして多摩川の河川敷、自由が丘の街へと繰り出します。戦時には一時休止になりましたが、戦後、溝の口で多摩美が再開すると〈おふでまつり〉も復活したのです。1951年には学生寮ができ、寮監を三沢覚蔵油画家助教授(表紙写真左端)が務められると熱心な寮生たちによって〈おふでまつり〉はますます盛大になりました。

写真提供：多摩美術大学溝の口寮友会「ちゃかほい会」

会長の挨拶



「元気？」でつながる友だちの輪
坂井忠平('82建築)

みなさんお元気ですか？
新しい会報をお届けします。

「元気？」

この短い言葉がどれだけ多く交わされたことでしょう。この短い一言にどれだけ多くの人たちが安堵し、勇気づけられたでしょう。

あの日。3・11から。

朝に、夜に、親子、兄弟、同僚、師弟、友人、先輩・後輩…。職場で、学校で、家で、旅先で。電話で、メールで、町でも村でも、北でも南でも、遠くも近くも、さらには海を越えて。

この一言に託した限りない思いと心がこんなにまで列島を駆けめぐった年を私は知りません。このたびの震災は「大切なもの」を問い合わせています。

人のつながり、地域のつながり…。「大学にとって大切なものは卒業生」とは常々母校

の藤谷宣人理事長よりお話しいただく言葉です。私たち卒業生にとって大切なものの…。いろいろあるとは思いますが「ともだち」はかけがえのないたいせつなもの。校友会が生まれて16年が経ちました。けれどもタマビ卒業生の歴史は母校と同じく70年を超えます。校友会はそんな世代を超えて「タマビ」のご縁でつながる「ともだち」の会です。今年、校友会は「お元気ですか？」を合言葉に皆さんにさまざまなご案内を差し上げております。10月2日に上野毛キャンパスで開かれた「ガーデン同窓会」には大勢の「ともだち」でにぎわいました。ここでもあちらこちら、たくさんの「元気？」の声に旧友、恩師の輪がひろがりました。このつながりを明日につなげていきたいと思います。「元気！」でもっともっとタマビの輪がひろがりますように。

震災後の「校友会」ができるこ

校友会では、3月11日の東日本大震災後、震災被害地域7県190市町村に住所がある卒業生1,021名へお見舞のハガキをお送りしました。津波の被害を受けた地域には約300名おり、お亡くなりになった方のご連絡は2名、また福島第一原子力発電所の事故で避難先がわからず返送の方が3名いらっしゃいました。被害の中、無事のご返信をいただいた方々もいらっしゃいました。震災後の大きな社会変化が予想される中、「卒業生に向けて」「社会に向けて」校友会のあり方を模索していかたいと考えています。

震災支援の卒業生の活動をご紹介いたします

アートによる心の繋がりを。
「デイリリー・アート・サークル」

開発好明さん('91油画)が企画し、8月から1ヶ月間、トラックにアート作品を詰め込み西日本から東日本へ移動しながら震災地域のために展会を行いました。アートによる心の繋がりを運ぶ活動はまだまだ来年も続きます。

[デイリリー・アート・サークル ホームページ](https://sites.google.com/site/daylilyartcircuswebsite/)
<https://sites.google.com/site/daylilyartcircuswebsite/>



東日本大震災復興支援チャリティー「オッコちゃん基金」

福島県いわき市でギャラリー＆カフェbraurot(ブラウロト)を営む木村啓太さん('00二油)と草野怜子さん('00二油)が「アート活動によって資金を作りアート支援活動を行う」という理念の元、被災した方が元気になるれるチャリティ企画を定期的に開催しています。現在、オリジナルカレンダーを販売し、売上の一部を活動資金に、また仮設住宅の避難者に無料で配布予定だそうです。

[ギャラリー＆カフェbraurot ホームページ](http://braurot.info/braurot/top.html)
<http://braurot.info/braurot/top.html>



津波の恐ろしさを書籍を通して伝えたい。

宮城県気仙沼市在住で「三陸新報社」と「三陸印刷」を経営されている渡邊真紀さん('72写真)が絵本「みちびき地蔵」(発行：気仙沼大島観光協会：www.k-macs.net/~oshimahp/)を編著されました。絵本(定価1,000円)の売上は大島で津波被害にあったみちびき地蔵の再建に充てられるそうです。また、写真証言集「巨震激流」(発行：三陸新報社：www.sanrikushimpo.co.jp/)をご紹介いただきました。



多摩美術大学校友会
会員数：37,688人

ホームカミングデー2011「ガーデン同窓会」

10月2日(日)、上野毛キャンパスにて「ホームカミングデー2011」と題し、「第17回定期総会」ならびに「ガーデン同窓会」を開催いたしました。東日本大震災に伴い、6月に予定していた校友会イベントを延期し、10月の開催となりました。初秋の風が爽やかな中、皆さまの笑顔が印象的な一日でした。ご参加された方は楽しんでいただけましたでしょうか？ご感想をぜひ、校友会事務局までお寄せください。



photo by bozzo



1. ガーデン同窓会集合写真：今年は、全ての卒業生にご案内を出し、1950年から2011年の卒業生やご家族、職員の方々300名以上の方がお集まりいただきました。出席者にご協力いただき、集合写真を撮影いたしました。皆さま、ありがとうございました。

2. ガーデン同窓会でご挨拶いただきました本学藤谷宣人理事長、多摩美に教え子もいらっしゃる武蔵野美術大学校友会会长の中島信也様。校友会名誉会長の五十嵐威暢本学学長より、乾杯のご挨拶をいただきました。

3. 今年、定年退職された先生方をお招きし、4名の先生方にご出席いただきました。感謝の気持ちを込めて花束を贈呈いたしました。左から山中玄三郎先生('63団立)、山下 泉先生、平山 達先生、中島祥文先生 ('66国平)。

4. 催し物として、ジャンベ部OGによる無国籍楽団「tandorim-ma(タンドリンマ)」が、会場を盛り上げてくださいました。老若男女、タンドリンマワールドに魅了されていました。

5. こどもと一緒に母校へ帰ろうをテーマにしたこども企画：今年は村田峰紀さん('05彫刻)による「背中で語ろう」を行いました。村田さんと一緒に、クレヨンで自分の背中に描く体を使った表現に挑戦しました。

支部・会員グループ支援(企画助成)について

平成22年度報告

平成22年度より資格を満たした「支部」ならびに「会員グループ」が実施する、広く社会一般を対象とした「芸術文化の発展に寄与する」事業・企画に対して、必要経費を助成する制度を始めました。平成22年4月1日から平成23年3月31日に開催、実施した5支部、1会員グループに助成を決定しました。

〈支部〉 千葉支部：「第13回千葉多摩美会」 福岡支部：「福岡支部第6回小品展」 群馬支部：「第4回トリエンナーレぐんたま」

新潟支部：「第3回新潟多摩美会」 ニューヨーク支部：「第6回 HAFH：明日への絵巻」

〈会員グループ〉 ちやかほい会(多摩美寮友会)：「第1回ちやかほい展」

平成23年度について

校友会の本年度の目標は、全国(海外含む)の会員に向けて交流の輪(ネットワーク)を広げてゆくことです。その手段として支部活動を支援してゆくことが確認されています。平成23年度は昨年決定した支援助成内容に沿って、「支部」「会員グループ」それぞれの制度として整えました。

「支部」支援については、10月1日(土)に各支部からの代表者をお招きし開催した第17回支部長懇談会にて検討され、合意形成をいたしました。今回は、ニューヨーク、台湾からの海外支部を含む16支部と、多摩教育の会からもご参加いただき、会議後は懇親会を開催し、親睦ならびに支部の持つ問題点を共有することができました。

そして会員グループ活動を応援する「会員グループ支援(企画助成)」制度は、現在受け付けを行っています。各地で卒業生達の活動を支援できるよう、今後もご意見を伺ながら進めていきますので、ぜひ、この支援制度をご活用ください。ホームページより申請書をダウンロードいただけます。申請期間は、平成23年10月3日(月)～12月15日(木)となっています。詳細はホームページ、同封の別紙をご確認ください。



第17回支部長懇談会(上野毛キャンパス)

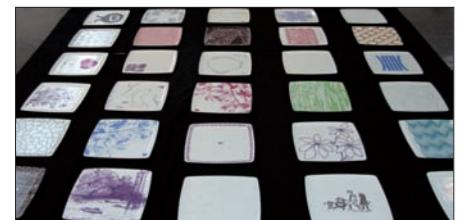
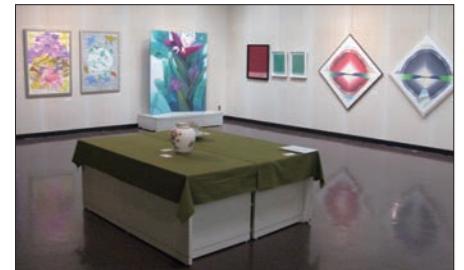
支部ピックアップ

福岡・佐賀・大分支部

第7回九州地区多摩美術大学校友会展

会期：2011年8月16日(火)～21日(日)

会場：福岡市美術館 特別展示室B



多摩美術大学卒業生による、2年に1度の創作活動の発表を福岡市美術館にて行いました。佐賀、大分、福岡のそれぞれの支部との合同展も第7回目を迎える展覧会となりました。

今回は、たまたま窯という初めての企画を行い、大変好評を得る事ができました。有田は日本を代表する焼物の産地で多くの卒業生が活躍する地でもあります。九州、日本の大好きな工芸品で、これからも、この企画をより進化させ多摩美術大学校友会が伝統工芸との共同作業を進め、微力ながらも、その発展に貢献できればと思っています。

(福岡支部長 稲田和利)

支部長交代ニュース

新潟支部

池山阿有('63 油画)
→ 星野健蔵('67 油画)

静岡支部

鈴木健司('58 油画)
→ 奈良間茂('71GD)

広島支部

内山晴夫('78 油画)
→ 森長俊六('79 彫刻)

福岡支部

守屋任人('66 油画)
→ 稲田和利('82PD)

支部・会員グループ活動記録

台湾支部 成立大会

台湾支部が張子隆支部長('80院彌)のもと、設立いたしました。
会期：2011年5月21日(土)
会場：台北市忠孝西路一段43號天成飯店三樓
302包廂

群馬支部 オープンキャンパスバスター

開催：2011年7月16日(土)
場所：JR高崎駅～八王子キャンパス



神奈川支部 神奈川多摩美2011

会期：2011年3月6日(日)～11日(金)
会場：横浜市民ギャラリー

神奈川支部総会

会期：2011年5月15日(日)
会場：かながわ県民サポートセンター



愛知支部 第6回多摩美愛知の会展

会期：2011年7月23日(土)～7月31日(日)
会場：ギャラリータマミジアム(名古屋市)



千葉支部 第14回千葉多摩美会展

会期：2011年6月14日(火)～19日(日)
会場：千葉県立美術館 第4室



広島支部 総会

会期：2011年9月3日(土)
会場：さかな市場(広島市)



新潟支部 第4回新潟多摩美展

会期：2011年6月18日(土)～26日(日)
会場：新潟市美術館 市民ギャラリー

第7回新潟支部総会

会期：2011年6月18日(土)
会場：鳥海西堀店(新潟市)



ニューヨーク支部 「ホーム・アウェイ・フロム・ホーム～多摩美術大学校友会ニューヨーククラブ」

会期：2011年9月14日(水)～11月19日(土)
会場：Hammond Museum & Japanese Stroll Garden



時代遅れの展覧会 昭和余年多摩美大卒業制作

会期：2011年5月19日(木)～24日(火)
会場：ギャラリー零∞(銀座)



共鳴する織維 日本現代ファイバーアート展

会期：2011年6月4日(土)～7月3日(日)
会場：多摩美術大学美術館



第2回ちやかほい展 多摩美術大学寮友会

会期：2011年9月7日(水)～13日(火)
会場：山脇ギャラリー(市ヶ谷)



多摩美1959年卒MY WAY展

会期：2011年9月20日(火)～10月3日(月)
会場：ギャラリー・クリエイト(外苑前)



秋山 孝

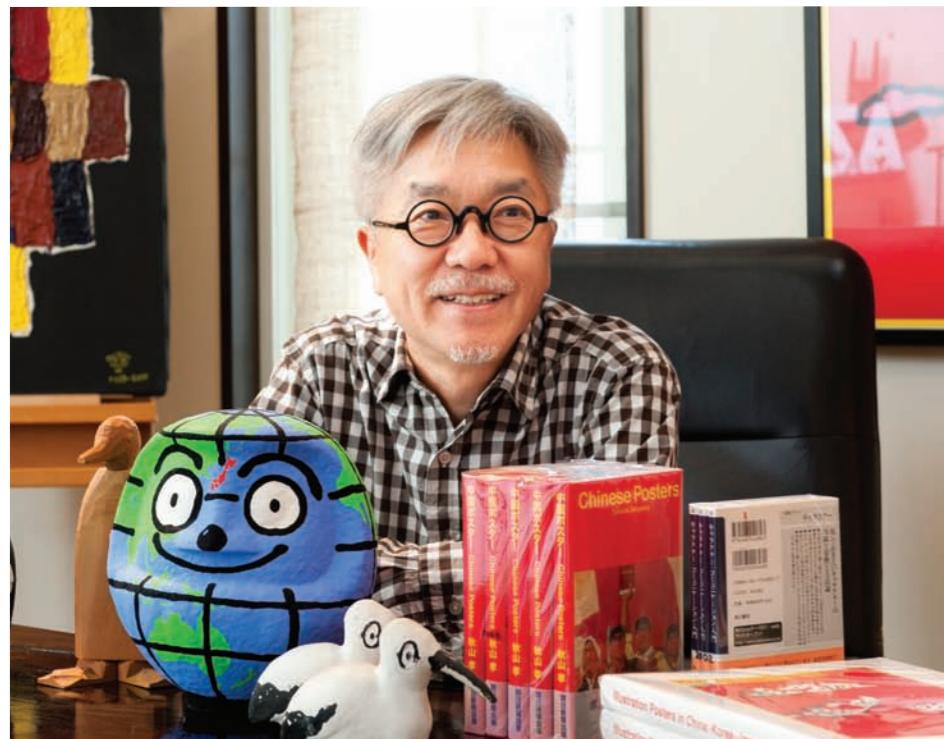
今回の卒業生インタビューは多摩美のグラフィックデザイン学科教授としてこれまでに大勢の学生を育ててこられた秋山 孝さんです。多摩美を卒業して以来、現在も国際コンペティションで受賞を重ね続けるなど第一線で活躍されています。一方で、近年はご自身の美術館を設立されるなど研究や教育に力を注いでいます。教員として、卒業生として、長く関わってきた多摩美とご自身の関わりについておはなしうかがいました。

卒業生のこと。校友会のこと。

いつも秋山さんは卒業生が大切だとおっしゃっていますが、その理由は？ぼくは、長く学内の広報委員会のもとで大学案内、サブパンフレット、シラバス、ファカルティ、履修案内の制作に携わってきました。多摩美とは何か、と考えていくと、そこにつきあたる答えは、多摩美の財産とは何かということでした。ひとつは、大学の豊かな教育環境（施設、教育内容、教員）と、もうひとつはそこから輩出する社会で理想や使命感に燃える数多くの卒業生でした。特に多摩美の卒業生の活躍ぶりは目を見張るものがあります。これを、多摩美の知的財産と考えるようになりました。そして、2000年に大学案内のサブパンフレットとして、「卒業生たちがつくれたもの」と題し、作品を掲載し、その創作の豊かさを社会に知らしめることを始めました。今もこの考えは少しも変わらず教育環境以上に卒業生自身が本大学の最も大切な財産と考えています。この財産は在学生に勇気と志を与える羅針盤の役割を持っています。

秋山さんは校友会の設立にかかわったと伺っていますが、当時の様子をお聞かせください。

本学藤谷宣人理事長の発案で版画専攻の渡辺達正先生が中心となり、校友会設立準備を始めました。設立宣言の文章の原案を作成したのが芸術学科の海老塚耕一先生で、「多摩美術大学校友会設立案内」「多摩美術大学校友会設立宣言書」「多摩美術大学校友会会則（案）」とシンボ



ルマークをぼくがデザインしました。そして、「多摩美術大学校友会設立準備会」「多摩美術大学幹事（案）」「多摩美術大学賛同者」とともに設立宣言をし、案内を卒業生に配布しました。なにしろ、渡辺先生のご尽力はただならぬ勢いがあり、そのお陰で校友会が生まれたと実感しています。そのような経緯で校友会がスタートしたのです。今では懐かしい思い出になりました。約16年前になりますが、多摩美のすばらしい卒業生が社会に沢山いるので、そのネットワークや絆のプラットホームとして校友会をつくる意義があると信じていました。

その後、校友会とのかかわりはどのようなものが印象的でしょうか。校友会の活動の中での一番の思い出は、初代事務局長の渡辺達正先生の発案で多摩美術大学校友会編の技法書シリーズを誠文堂新光社より出版したことです。ぼくが担当したのは「新しいイラストレーション入門」と「新しいシルクスクリーン入門」でした。渡辺先生のアイディアは校友会の社会貢献活動として知的で斬新でした。そのお陰で多摩美のイラストレーションの教育と卒業生のイラストレーターの活躍を俯瞰することができました。戦後日本のイラストレーションの歴史をたどると、多摩美の卒業生達の活躍が突出していることが分かり、まるで、多摩美イラストレーション史といっても過言ではない発見がありました。切れ目無く常に才能のあるイラストレーターを輩出し続けていることが分かったのです。グラフィックデザイン学科だけではなく、各学科からも輩出されています。それこそ、多摩美にしかない創作表現のDNAが受け継がれ続けていることがよく分かりました。

二つ目は、第1回「出前アート大学」の講師を務めたことです。第1回出前アート大学は、当時の会長、東海林 隆会長の発案でできたプロジェクトです。会長からの依頼で、行うことになりました。蕎麦屋さんのようなネーミング「出前アート大学」を渋谷、本町小学校で行いました。子どもたちが描いた小さなイラストレーションが、最先端の中川ケミカルのカッティングシートの技術を駆使して小学校の体育館の壁面を飾るという小さくて大きな企画です。「渋谷の自然」というエコロジカルなテーマで子どもたちが描いた絵は、プロセスを経て、デザインという手品によって美しい壁画となりました。これは小学校の授業では実現不可能な授業です。テーマは驚きとは何か、「1.自分が描いたものと全く同じものが自分の体よりも大きな作品になった」「2.専門家という特別な能力を持った人達の協力を得ることによって新たな力が生まれるということを知る」「3.それを人々に見てもらいたい対話が生まれる喜びと驚きを体験する」



「4.制作には、プロセスがあるということを知る」「5.作品は長く残り、多くの人達に作者の気持ちを伝えることができる」という5つの驚きを作り第1回の出前アート大学を実現しました。表現の始まりは、さまざまな驚きから生まれます。そして、その感動から描かれたイラストレーションには、独自なメッセージがあります。見る側の人達はその魅力を読み取り、共感を抱きます。これがアートの原点です。

多摩美での研究と教育

多摩美ではイラストレーションの研究をされていますが、具体的にどのような活動をされてきたのでしょうか。

1998年から始めたイラストレーションスタディーズは、「ビジュアルコミュニケーション表現の可能性」を基にイラストレーション学の確立を目指すための研究です。イラストレーションとは何かから始まり、現在まで14年間継続し45冊の研究書を発行し続けています。

2007年には、その成果として多摩美術大学70周年記念事業の中で多摩美術大学と産経新聞主催で「東方のイラストレーションポスター展 中国・韓国・日本」を開催しました。中国、韓国、日本のイラストレーションポスターの研究成果を発表した展覧会です。NHKの日曜美術館でも取り上げられ、韓国の光州デザインビエンナーレ2007で巡回展を行いました。また、イラストレーションスタディーズをもとに、グラフィックデザイン学科の基礎課程のデッサン授業のプログラムと3、4年生及び大学院のイラストレーションの授業プログラムができあがりました。



なぜ「秋山孝ポスター美術館 長岡」ができたのですか。

この美術館ができた経緯は、1999年「しなの川音楽祭」のイベントとして、新潟県立近代美術館ギャラリーにおいて「秋山孝の世界展」を3年連続開催したことから始まりました。その展示作品を中心に532点の作品が「秋山孝長岡コレクション」として長岡市に収蔵されました。その後、2008年「秋山孝ポスター美術館 長岡」の案が地元宮内・揖田屋地区の多くの方から発案され協力を得て実現に至りました。

新潟県長岡市は、いくつもの難儀を背負ってきた街です。しかし東山と信濃川からの美しい自然と恵みによって「豊かな美を感じる精神」を育んできました。ぼくはこの街で生まれ、一族は先祖代々認識できない程長きに渡ってこの地に暮らしてきました。

また、長岡は小林虎三郎の「米百俵の精神」にあるように、1868年の戊辰戦争に敗れた長岡藩において彼が「どんな苦境にあっても教育をおろそかにできない」と主張し、教育が「長岡を立て直す一番確かな道」と説いたのです。ぼくの美術館もその精神を受け継いで、目的は1.研究、2.コレクション、3.教育と位置づけました。美術館の建物は1925年に建設され、北越銀行宮内支店として地域の人々と共に歩んできました。第二次大戦による火災や度重なる地震などによって老朽化していましたが、街にとって大切な歴史的建造物でした。それを修復し、「秋山孝ポスター美術館 長岡」として2009年7月11日に生まれ変わりました（都市景観賞受賞）。旧三国街道の宮内・揖田屋地域（醸造の街）全体の魅力を再発見し、新旧を紡ぎ合わせ、街全体を美術館と考え新たな街づくりの実現に貢献したいと願っています。

最後に、多摩美に長く関わられてきて、大学に期待するものは何ですか。ぼくの期待するものは、多摩美術大学の卒業生を中心とし、先にも述べた知的財産とそれをもった教育的価値の確立を目指すことです。校友会を含めて互いに協力し合い、日本の美術やデザインの指針となる理念と教育の基盤を作り上げることが重要だと考えているのです。日本、およびアジアを代表し世界に君臨する美術大学としてのリーダーにならなければならないと思うのです。



2011年9月1日アトリエにて取録

- 秋山 孝（あきやま・たかし） Akiyama Takashi
イラストレーター、グラフィックデザイナー、多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科教授
- 1952年 新潟県長岡市生まれ。
 - 1979年 多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業
 - 1981年 東京藝術大学大学院修了
 - 1984年 アフリカ自然保護ボスター・チュニジア大使館賞
 - 1986年 ブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレ・金賞
 - ブルノ国際ポスター・ビエンナーレ・銀賞
 - 1992年 メキシコ国際ポスター・ビエンナーレ・優勝賞
 - 1993年 ニューヨーク・アートディレクターズクラブ国際展・銅賞
 - 1995年 ニューヨーク・フェスティバル・銀賞
 - 1997年 ヘルシンキ国際ポスター・ビエンナーレ'97・銅賞
 - 1999年 ニューヨーク・フェスティバル・国連賞
 - 2007-11年 Graphis Poster Annual (アメリカ)で14個の金賞を受賞
 - 2007年 フィンランド、メキシコ、イタリア、ウクライナ、中国、アメリカ等で国際ポスター展 国際審査員として招請される。著書に『キャラクター・コミュニケーション入門』(角川書店)、『秋山孝ポスター作品集』(上海人民美術出版社)、『Chinese Posters』(朝日新聞出版)、『イラストレーション・スクール』(デザインハウス・韓国)他多数。
(ホームページ) <http://www.tamabi.ac.jp/gurafu/akiyama/>

- 図版1.「多摩美術大学校友会設立案内」、「多摩美術大学校友会設立宣言書」、「多摩美術大学校友会会則（案）」
2.イラストレーション・スタディーズによる研究書 全5巻 3.ポスター「KABUM!Mix」展（ブラジル）2010年
4.秋山孝イラストレーションポスターin上海（上海松江美術館・中国）2009年 5.雁木と金庫扉のある、秋山孝ポスター美術館 長岡（APM）
(秋山孝ポスター美術館 長岡 ホームページ) <http://apm-nagaoka.com/>

校友会奨学金制度

校友会には二つの制度があり、小品展の売上を奨学金に充て、私費留学生が対象の研究室の推薦制で選出されるものと、企画書、今までの制作物からなる応募計畫書のみで選考する校友会奨学金制度があります。意欲がある方はぜひ校友会奨学金にチャレンジしてください。

●本年度選考会は下記のとおり行われました。

日時：平成23年7月2日(土) 10:00～15:00

場所：上野毛キャンバス第3会議室

選考委員：中野嘉之(日本画)、野田裕示(油画)、天野純治(版画)、水上嘉久(彫刻)、小林光男(工芸)、末房志野(GD)、田中秀樹(PD)、柏木弘(TD)、田淵諭(環D)、矢野英樹(情D)、海老塚耕一(芸術)、武正秀治(D)、松下宣廉(造形)、ほしのあきら(映像演劇)(敬称略)

平成23年度校友会私費留学奨学生

AN Hye Lim	韓国 美術学部彫刻学科3年
JEONG Hyesoo	韓国 美術学部生産デザイン学科PD専攻3年
KIM Min Na	韓国 美術学部生産デザイン学科TD専攻3年
KOH Soh Yeong	韓国 美術学部GD学科4年
KANG Sunyoung	韓国 博士前期課程(修士課程)絵画専攻2年



平成23年度校友会奨学生

武田竜真	美術学部絵画学科油画専攻3年
橋口美佐	美術学部絵画学科油画専攻3年
光井 花	美術学部生産デザイン学科TD専攻4年
松田晃典	造形表現学部デザイン学科4年
濱田路子	博士前期課程(修士課程)絵画専攻2年



平成23年度多摩美術大学校友会奨学金選考審査総評 校友会理事 中野嘉之

7月2日(土)に学内幹事および奨学金制度委員の代表者14名(内欠席者4名は2名選出、芸術学科1名を選出)が選考にあたりました。応募総数は45名。「A.ファイン系」24名(美術学部14名、大学院10名)「B.デザイン系」16名(美術学部8名、造形表現学部2名、大学院6名)「C.芸術学科」1名(美術学部1名)「D.映像演劇」4名(造形表現学部4名)でした。①選考委員会に出席した委員が、それぞれ「A.ファイン系」「B.デザイン系」の担当にわかれ、優秀と思う2名を選出する。その結果17名に票が入りました。(内訳：ファイン系7名、デザイン系8名、芸術学科1名、映像演劇1名)②2、3票が入った計画書「A.ファイン系」「B.デザイン系」「C.芸術学科」「D.映像演劇」を選考委員の担当以外の計画書から優秀と思う1名を選出する。その結果、ファイン系に3名、デザイン系に5名、芸術学科1名に票が入りました。その結果、選考された計画書を、

1.能力、2.期待度、可能性、3.企画コンセプトの基準を元に総合的に協議し、優秀と思う企画書を選出する。以上の経過により、5名の方が選ばれる結果となりました。応募された作品のテーマ、計画書はレベルの高いものが多くありました。ファインの武田君、橋口さんは、体質的な相違はもちろんあるのですが、両氏共、独創的で、人間の精神的根源からの発想をテーマにしており、橋口さんはありのままの自分を制御しながら見詰め、武田君は客観的に「生と死」を見詰め深めていこうとしています。これらの作品に期待すること大である。版画表現で選出された濱田さん、ドローイングを版表現することはそれ程驚くことではないですが、ドローイングが彼女自身の持つ体质的な持ち味で次への可能性を期待しています。テキスタイルの光井さん、造形表現学部プロダクトの松田君は、それぞれのセンスの良さとそれぞれ独自のスタイルをもうすでに生み

出しているように思えます。今回、この5名が選ばれましたが、選考する基準である1.能力、2.期待度、可能性、3.企画コンセプトは変わらないのですが、その他、この能力のみで良いのか、広く公平さを持つ為の方法を改めて考えてみたいと思っております。この校友会の事業の長く続くことを願って。

【報告】平成22年度校友会奨学金成果報告について
昨年度の奨学生による成果報告会を4月に八王子、上野毛キャンバスにて予定しておりましたが、東日本大震災を受け、展示を中止いたしました。その代替措置として冊子を発行し、学内で配布を行いました。今年度も計画をしております。時期、会場は決定し次第ホームページでお知らせいたします。

校友会小品展2010・チャレンジ賞受賞者個展の報告

年末恒例になりました卒業生・教職員の出品による文房堂ギャラリーで開催した「小品展2010」も無事に終了いたしました。出品者217名、来場者数約600名、作品点数295点中、111点の作品をお買い上げいただき、売上金は1,333,700円となりました。この売上金から画料50%、私費留学生奨学金49% (653,513円)と「歳末たすけあい」(共同募金会)の寄付1% (13,337円)に使わせていただきました。また来場者による投票を元に校友会で決定する若手クリエーター応援企画である個展支援のチャレンジ賞は応募者33名中、6名を受賞者といたしました。



坂巻裕一('03 情D)
2011年2月7日～12日
ガレリア・グラフィカbis



竹中美幸('01油画)
2011年3月2日～24日
トーキョーワンダーウォール都庁



長 雪恵('04 造形)
2011年5月16日～21日
ギャラリーデタマ



前野智恒 ('02 版画)
2011年3月2日～13日
ギャラリースペース游



石原陽子 ('06 彫刻)
2011年3月28日～4月2日
ギャラリーQ



藤井彩子 ('97 院彫)
2011年10月7日～23日
gallery宙

出前アート大学

今年で8年目の出前アート大学は、これからも小学校に出かけて行って、アートの素晴らしさ、楽しさを子どもたちに伝えます。授業 No.035 から No.038 までの報告をいたします。

No. 035

「芸術の秋 アートの種み～つけた!
～おおきなキャンバス、ちいさな
キャンバス、わくわく芸術家体験」

講師：大谷有花
('03院油画・現代美術作家)

No. 036

はんぶん うまってます
～海辺の空想彫刻～

講師：本間 純
('90クラフトD・美術作家)

No. 037

映像であそぼう

講師：屋代敏博
('94二芸・写真家・美術作家)

No. 038

君が主役★★★劇団CUE

講師：成田 久
('97染織・資生堂AD・アーティスト)

2010年10月12日(火)

福島県大沼郡金山町立
金山小学校
1～6年生45名

日常生活の中から身の回りのこと、自分の中身のことを調査し、そこで見つけた"アートの種"がアートに変わっていく面白さを想像しながら、見えている部分をベニヤ板で作りました。そして、完成した作品「空想彫刻」を実際に海岸に埋め、一人ひとり埋まっているものは何か思いきって表現してみました。

2010年11月22日(月)

神奈川県茅ヶ崎市立
茅ヶ崎小学校
5年1組28名

砂浜に埋まっているとおもしろいもの、思いもよらないものを考え、砂の下の形を想像しながら、見えている部分をベニヤ板で作りました。そして、完成した作品「空想彫刻」を実際に海岸に埋め、一人ひとり埋まっているものは何かを発表しました。

2011年2月4日(金)

東京都板橋区立
常盤台小学校
4年生94名

みんなで協力して被写体やカメラマンになることで映像の世界に親しみ、そこから伝わる面白い効果や時間感覚など、普段とは違う物事の見え方を普段とは違う物事の見え方を表現しました。完成した映像作品は板橋区立美術館で展示されました。

2011年2月25日(金)

東京都港区立
麻布小学校
5年1組30名

皆さんから「CUE(きゅー)」と呼ばれる成田さん。劇団 CUE の団員となった児童一人ひとりが主役となり、自分らしい表現をおもいきり楽しみました。成田さんの世界感に触れながら、身体を使い、手を動かし、感じたことを自由に表現しました。



今後の予定 11月に神奈川県藤沢市立善行小学校、2月に神奈川県横浜市立鶴志田第一小学校、3月に埼玉県坂戸市立南小学校での授業を予定しています。実施先は公募(毎年3月上旬に締切)によって決定しています。ご興味のある方は事務局までご連絡ください。
[ホームページ](http://www.tamabi.ac.jp/alt/demaeart_site/top.htm) http://www.tamabi.ac.jp/alt/demaeart_site/top.htm

第17回定期総会開催の報告 ~平成23年度事業計画のあらまし

10月2日(日)に第17回定期総会が上野毛キャンパスで開催されました。前年度の事業・決算報告、また今年度の計画が発表され、全ての議題が承認されました。11ページの平成23年度予算、別紙の第17回定期総会議事録と共に、平成23年度事業計画のあらましをご紹介します。

広報

会報の誌面充実に取り組んでいます

年に1回発行の会員広報誌「alt(アルティ)」。今年は3万部を発行いたしました。

広報

ホームページからの情報提供に努めています

多岐にわたる情報を効率よくお伝えできるよう、デザイン・機能面でのメンテナンス費用を計上しています。

企画

「小品展2011」を開催します

14回目を迎える恒例のチャリティ展覧会。12月4日(日)~10日(土)に神保町の「文房堂ギャラリー」で開催いたします。今年は売上の50%を出品者の画料、25%奨学金基金、25%をアートの分野における東日本大震災への義援金といたします。詳細は同封のDMをご覧ください。

企画

「出前アート大学」

今年度は東日本大震災直後の社会的混乱もあり、上半期(4~9月)の間「休校」といたしました。下半期に3校の実施を予定しています。

総会

「ホームカミングデー2011」の開催

年に一度、母校に集う日「ホームカミングデー」。卒業生ネットワークを広げるためすべての会員(※所在判明分)に案内状をお送りしています。そのため通信費が昨年より増額となりました。(10月2日に実施済み)

助成

支部の運営支援を強化します

地域に根ざした活動を行う支部の独自性を尊重し、活動内容に応じて柔軟な資金助成が行えるよう、制度の整備を進めてます。今年度は助成に充てる予算を増額しました。

助成

卒業生へ芸術活動の奨励金

制作・研究意欲があり、広く社会に向けて発表活動を積極的に取り組んでいる卒業生に向け助成活動を行います。5名以上の団体を対象とした「会員グループ支援(企画助成)」、個人を対象とした「小品展チャレンジ賞」があります。

助成

準会員の学生生活応援

将来の会員となる学生(=準会員)へ向けて支援しています。奨学金制度は、①私費留学生奨学金(総額50万円)②校友会奨学金(総額250万円)の2通りあり、いずれも「校友会奨学金基金」を財源としています。また新入生にお祝いとして贈る「オリジナルスケッチブック」に加え、新卒業生にもお祝いの記念品を贈ることを検討しています。

会議

支部との連携を強化します

国内に22、海外に2つの支部があります。毎年1回開催されていた「支部長懇談会」を必要に応じ回数を増やしネットワーク充実に向けて協議を重ねるため、経費を増額します。

人件費

事務局員を増員します

会員数の増加に伴い事務局機能の強化が求められています。これまで1名体制(ほかにパートタイマー2名)で臨んでまいりましたが今年度より2名体制(ほかにパートタイマー1名)としました。

第18回定期総会のご案内

来年、2012年の定期総会および関連イベント「ホームカミングデー2012」は、6月の実施を計画中です。4月末にお知らせをいたしますので、皆さま、お友達に声をかけあってご参加ください。

平成22年度決算報告(平成21年4月1日~平成22年3月31日)

平成23年度予算

(単位:円)			
科目	予算額	決算額	差異
〈当期収入合計〉	(37,700,000)	(38,181,448)	(△481,448)
会費収入	35,950,000	36,290,184	△340,184
名簿収入	0	0	0
小品展収入	0	1,333,700	△1,333,700
奨学金基金	0	0	0
寄付金	0	0	0
懇親会費	0	251,950	△251,950
大学助成金	0	0	0
雑収入	1,000,000	31,727	968,273
利子収入	750,000	273,887	476,113
基本準備金からの繰入収入	0	0	0
奨学金積立金からの繰入収入	0	0	0
〈調整勘定〉			
〈前年度繰越支払資金〉	(6,113,331)	(6,113,331)	(0)
収入合計	43,813,331	44,294,779	△481,448

(単位:円)			
科目	予算額	決算額	差異
〈経費支出〉	(37,629,500)	(35,387,774)	(2,241,726)
広報費	4,341,500	4,301,153	40,347
卒業生名簿管理費	30,000	32,550	△2,550
企画運営費	6,735,000	6,481,717	253,283
総会費	1,892,000	1,773,870	118,130
助成活動費	3,484,000	2,087,637	1,396,363
会議費	351,000	311,078	39,922
理事活動費	500,000	534,982	△34,982
交通費	1,610,000	1,570,544	39,456
会合費(涉外費)	210,000	172,655	37,345
備品・消耗品費	1,440,000	1,375,348	64,652
通信費	4,770,000	4,359,467	410,533
振替手数料	186,000	183,275	2,725
事務局員給与	8,950,000	9,127,117	△177,117
奨学金	3,000,000	3,000,000	0
寄付金	0	13,337	△13,337
予備費※	(50,000)		
	36,663	36,663	0
雑費	80,000	63,044	16,956
〈各種引当金〉	(4,000,000)	(3,653,513)	(346,487)
基本準備金引当金	0	0	0
奨学金基金引当金	4,000,000	3,653,513	346,487
名簿出版準備引当金	0	0	0
特別事業費引当金	0	0	0
〈その他の支出〉	(1,091,699)	(1,091,699)	(0)
前期未払金	1,091,699	1,091,699	0
〈調整勘定〉		(△1,529,153)	(1,529,153)
期末未払金	1,091,699	1,091,699	0
〈期未繰越支払資金〉	(1,092,132)	(5,690,946)	△4,598,814
支出合計	43,813,331	44,294,779	△481,448

※予算額の予備費振分明細 寄付金(13,337)

積立基金(平成21年11月3日~平成22年3月31日)

(単位:円)

基本準備金	奨学金基金	名簿出版準備金	特別事業費積立金	全基金積立額	累計
平成22年度	0	3,653,513	0	0	3,653,513
合計	242,000,000	10,608,062	0	0	252,608,062

※平成22年度の奨学金基金は、奨学金支出￥3,000,000に小品展2010売上￥1,337,700の49%￥653,513を増額し、積み立てた。

ご逝去された方々 謹んでご冥福をお祈りいたします。

松原雅夫('41団案)	井上喜代子('43油画)	村上洋一('48油画)	杉江康彦('52団案)
飯田四郎('54油画)	佐々木幸一('55油画)	大谷幾生('57油画)	茂田篤('57油画)
鈴木慶則('58油画)	村瀬継雄('58彫刻)	相澤正康('59団平)	高田修地('60団平)
玉置宏輝('61団平)	小島順一('62団画)	林悟郎('62写真)	阪口恒雄('64団平)
石橋精一('65写真)	本多通('66油画)	富田典子('69染織)	五十嵐良雄('70GD)
稻毛康子('72GD)	田中勝('76油画)	高橋雅巳('77ID)	在原清司('79写真)
松窪英二('80油画)	名越哲明('82油画)	北原昇('84油画)	五木田和彦('84写真)
間野恒子('89GD)	星野晶子('98二劇)	藤森留美子('00版画)	西山究(PD4年)

(敬称略・2010年10月~2011年9月連絡分のみ掲載)

○役員改選

退任された理事・幹事の方々には、任期中お忙しいにもかかわらず、多大なご協力をいただきました。深く御礼申し上げます。

新任理事 :

岡田忠明('75日画) 青木栄二('80GD)

小野範子('84油画)



新任幹事 :

寺内隆('72ID) 村井進吾('76彫刻)

千々岩修('95日画) 七島泰斗('11情芸)

○平成23年度役員構成(第6期~2年目)

五十嵐威暢('68GD) 名誉会長

東海林隆('57団案) 顧問

鶴見雅夫('59油画) 顧問

坂井忠平('82建築) 会長

神谷紀雄('63彫刻) 副会長

田中秀樹('84PD) 副会長*

末房志野('98GD) 副会長

松下宣廉('69日画) 監査*

森博美('76D) 監査